

新産業創造事業や 地場産育成へ46件

県が認定、補助や融資

兵庫県は二十三日、新しい市場を切り開く「新産業創造プログラム」など、中小企業や地場産業の新分野開拓を支援する計四十六件の事業計画を認定した。補助金や融資のほか、経営、技術指導により事業化を促す。これらの事業で、約二百四十人の新規雇用が見込まれるという。

情報、環境分野軸に

三年間の支援が得られる同プログラムは申請六十三件に対し、十三件を認定。半導体製造のコストと時間を削減できる「パソコンによるマスク不要のダイレクト露光装置」を開発するユメックス(夢前町)や、岩盤などを無振動、無騒音で破碎する掘削装置開発と工法の普及に取り組む神島組(西宮市)など、情報通信や環境分野が多数に

上った。

県が昨年秋の緊急経済雇用対策に盛り込んだ「地場産業新分野進出支援事業」は、十三件が申請し十一件を認めた。パソコンなどが発する電磁波の人体への影響を低減し、ファッショ性も備えたニット製品の開発に取り組む東播染工(西脇市)や、さまざまな形状の皮革素材を効率よく染色加工する方法の確立を

目指す寺越産業(姫路市)など、県内の地場産業からまんべんなく選んだ。

昨年度から始めた「先進的中小企業新分野進出支援事業」は三十九件の申請のうち認定は二十二件。身体の障害に応じて操作できるパソコン用マウスを開発するプレックス(伊丹市)、畜産業者が処理に苦慮しているふん尿などを、建設廃木材を活用して無公害化する

だ。
川嶋建設(出石町)などを選んだ。